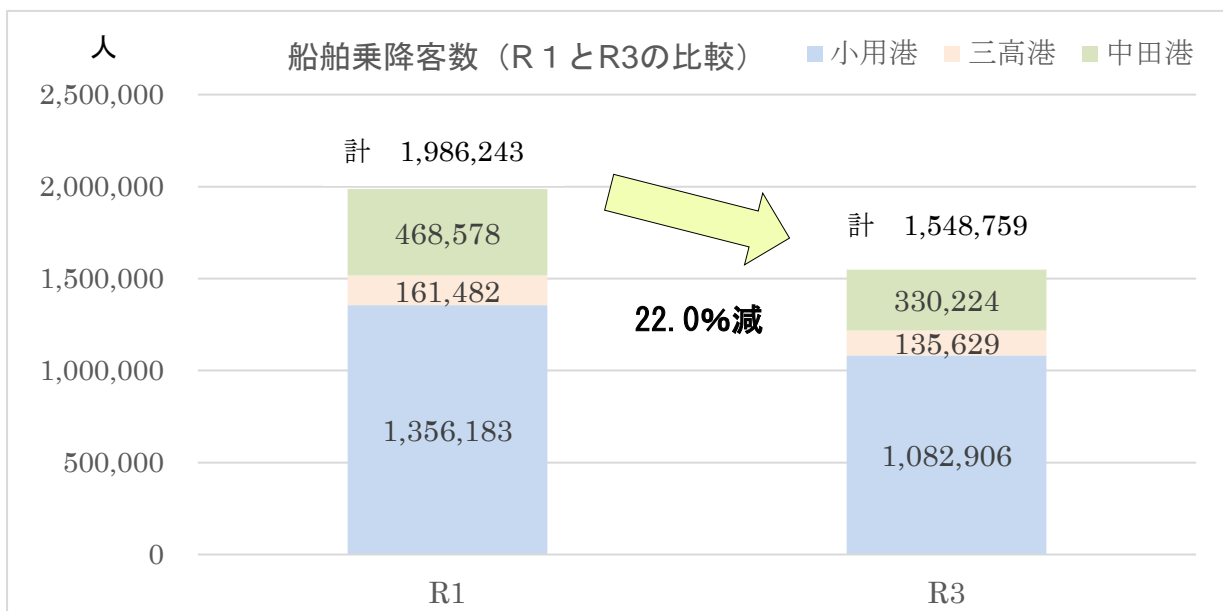


市内海上交通の現状について

1 概要

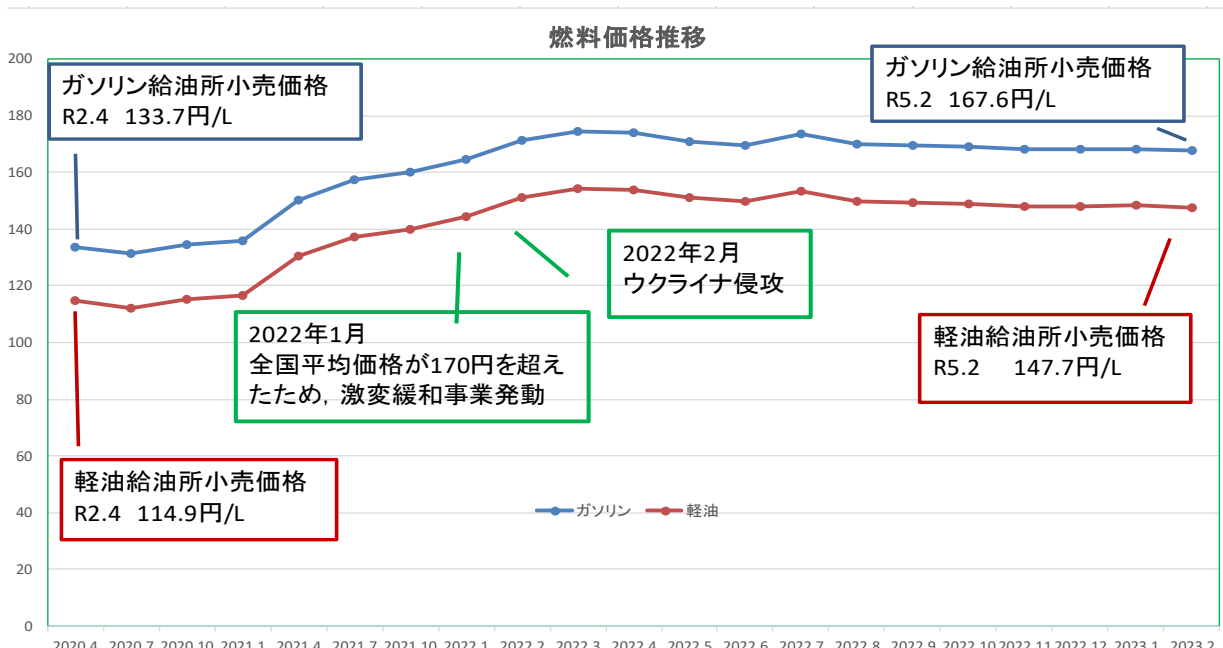
新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、令和3年の市内海上交通の乗降客数は、コロナ影響前である令和元年と比較して、22.0%の減少となりました。また、大幅な利用者の減少による減収に加え、原油価格等の高騰が重なり、航路事業者の経営状態は悪化しています。

2 海上交通の乗降客数の推移（「港湾統計（年報）」より）



中田港：中町棧橋，高田棧橋　三高港：三高棧橋　小用港：小用棧橋，切串吹越棧橋，切串西沖棧橋，秋月棧橋

3 燃料価格の推移（資源エネルギー庁「給油所小売価格調査」より）



4 市内海上交通の今後について

原油価格等の見通しについては、ウクライナ情勢や新型コロナウイルスの影響など不確定要素も多く、楽観的な予測ができない状況にあります。

また、新型コロナウイルス感染症拡大により働き方や生活様式が一変した社会状況の中、今後も利用者数の低迷が長引けば、更なる経営状態の悪化が予測されるため、利用客の増加に向けた取組が必要となります。